

---

---

## ポスター No.126

---

# 大阪の小さな田舎町で生活支援体制整備事業を 基に、もっと住みやすい太子町を考えてみた!

---

---

### 太子町社会福祉協議会

#### 【説明】

大阪サミットに出展したポスターでは、生活支援体制整備事業の取り組みを「積み木」の形で表現しました。住民、行政、生活支援コーディネーターがチカラを合わせて積み上げた、太子町の協議体や生活支援体制のカタチです。

今回のポスターでは、平成28年度から積み上げられた生活支援体制を基に太子町をもっともっと住みやすい町にするためには、どのような目標設定が必要か、その目標に向けて大阪サミット以降どのような取り組みを進めてきたかを表現しています。

生活支援体制整備事業のキモとなる SASAE 愛太子や生活支援コーディネーター、地域包括ケアシステム検討会議などの上に、大阪サミット以降もさまざまな取り組みを積み上げてきています。

町内の企業とともに耕作放棄地対策に取り組む中でひきこもりの方を農業につないだり、まだまだ生活支援コーディネーターが見えていないご近所の助け合いを把握するために支え合いマップを住民と一緒に作ったり、交流サロンを起点にしたショッピングリハビリを始めるなど、地域のチカラをパワーアップしようという地域力強化と、保健所や警察などとの連携を深めて、個別支援においても多種多様な機関のつながりをさらに強固なものにしていこうという多機関連携の2本柱を生活支援体制整備事業（土台）の上に積み重ねています。この2本柱をもとからある生活支援体制整備事業と連動させることによって、情報の発信や共有、行政内部や関係機関どうしの枠組みを超えたつながりをスムーズに強化することができています。さらには、この2本柱の取り組みを進めることによって、生活支援体制整備事業もさらに発展しているという点もこのポスターで表現しています。また、不安定な土台に積み上げていくのではなく、しっかりとした土台のうえに積み上げていくことで、より安定した制度設計が可能になると考えています。

この地域力強化と多機関連携は地域共生社会の実現に向けた重層的支援体制整備事業にも位置付けられており、太子町では生活支援体制整備事業と重層的支援体制整備事業を連動して進めることにより、住民も社協も行政も地域共生社会（もっと住みやすい町）を実現するために、我が事として取り組めるように進めています。

また、東京サミットの頃には上に積み上げていくだけではなく、ジャングルジムのように上下左右どの方向に対しても自由に対応できる柔軟性があり、なおかつ鉄筋コンクリートのような頑丈な骨組みを作れるように事業を進めています。

これらのことが一連の道筋として進んでいることを表現するために、オレンジ色の部分は道、緑色の部分は道端の草となるような色使いに仕上げています。



「いきがい・助け合いサミット in 神奈川」2021年 出展ポスター